



## 育ててくださるのは神さまです

私は保育者になって約30年になりますが、保育者として駆け出しの頃は、無我夢中でした。でも、子どもたちと「何をしようかな」「こんなことしたいなあ」といろいろ考え、悩みながらも、楽しく充実した日々でもありました。ただ、その頃の私は、「今子どもたちが何を楽しんでいるか」、「今何を大切にしたいか」というようなことは関係なく、自分の思いだけで「こんなことしたら楽しいかな」と、活動の計画を立てていたように思います。また、当時は子どもの姿を目に見える部分から捉えて、「あれができない、これができない」と思ったり、「どうしてそんなことをするの?」と思ったりして、子どもたちへの注意や指示の言葉が多かったと思います。またそうかと思うと、大人しい子

どもを見ると、「自分の思いがなかなか言えない。大丈夫かなあ。」ととても心配していました。そんな中、「私は子どもたちに何を求めているのだろう。一人ひとり違って当たり前なのに、みんな同じ理想形(あくまでも自分の主観、自分が思い描く理想像)を求め、それに当てはまらないと心配したり、注意したりしている自分は何なんだろう」と思うようになりました。

日々そんな思いを持ちながらも保育者としての歩みを続けている中で嬉しいことの一つが卒園生との再会です。卒業や入学の節目の時、当園主催の「二十歳の集い」、そして学校帰りにふらっと来てくれることも。再会時にはその子の保育園時代のことを思い出しながら、目の前の成長した姿に、保育者としての喜び

に満たされ、エネルギーがチャージされる嬉しいひと時です。そんな再会の中である日、高校生になったTさんのご両親と話す機会がありました。保育園時代、大人しく、おっとりしていて、目立つタイプではなかったTさんが高校でヨット部の部長として生き生き活躍していると聞きました。「成長させてくださったのは神です」の御言葉(コリントの信徒への手紙一 3章6節)を痛感し、乳幼児期の子どもに完璧な理想像を求めてその形にはめようとする愚かさを痛感しました。子どもたちは、乳幼児期を土台としながらも、その後に出会う人、出会う経験をひとつひとつ積み重ねながら人知を超えて働かれる神さまのご計画の中で成長していくことを胸に刻みました。

そしてその頃出会った作業療法士のある先生から、「人の行動には全て原因がある」ということを学びました。人の言動の背後にある感覚処理の特性から子どもを理解する視点に出会うことで、いわゆる問題行動と言われる行動がなぜ起こるのか、その要因を知るようになりました。子どもの言動の要因を知ること、子どもを受容することができ、必要な支援の方法につながり、不用意な注意叱責の言葉を発することがなくなりました。子どもだけでなく、大人もみんな十人十色。自分の小さな物差しだけで人を理解するのではなく、多角的な視点をもって、人を理解し、尊重し合って歩むものでありたいと思います。

私たちが日々実践しているキリスト教保育の場においては、子どもも大人も共に育つことを喜びとする園の想いが人のやさしさや温かさを醸し出すと言われています。大阪YMCAの各現場でも子どもが互いの違いを認めつつ、共に生きる平和な社会を創り出す喜びが活動の様々な場面で感じられることを期待しています。



社会福祉法人  
奈良愛の園福祉会  
あいのそのこども園  
園長

おおくほ  
大久保 めぐみ

### ■大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み、平和で公正な世界をめざします。



## ユース事業部(公益財団法人)

### 子ども×家庭×地域

ユース事業部 徳島YMCA 事業長 たけなか とよあき 竹中 豊明

日頃より体育指導を通して、多くの子どもたちと関わっていますが、コロナ禍の制限の中で過ごした数年間で、子どもたちにいろいろな影響が出ています。外遊びの制限による経験不足や体力が低下していること。大人数で遊ぶことが制限され、会話や交流の機会が不足したことからお友だちのことを考える機会が減少し、家時間が増えたことでテレビやゲームなどの視聴時間が増大したこと。それに伴い視力や我慢する力の低下や気持ちを切り替えることができない子どもたちが増えてきていること。子どもたちへの影響はとても大きいと感じています。

体育指導に行っているこども園の先生方から依頼を受け、「豊かなあそび(体験)が開く、豊かな未来」という講演会をさせていただきました。日常生活の中であそび(体験)をいかに増やすことができるのか、またあそびだけでなく自転車での移動や買い物と一緒に行くなど、日頃の何気ない運動の機会やコミュニケーションをとることが、子どもたちの発育発達の視点で大切だということを話しました。

今年度、徳島YMCAでは「子ども×家庭×地域」を掲げ、ファミリーでの活動を毎月行っています。8月には、5年ぶりにYMCA連として阿波踊りに参加しました。子どもたちのすてきな踊り、何よりもたくさんの保護者の協力のもと無事に終えることができました。参加した子どもたちは初めて会うお友だちや保護者と話したり話しかけられたり、ドキドキが笑顔に変わっていく、このつながりこそが子どもたちの未来に大きく関わっていくと感じました。これからも子どもや家庭、地域の方々と共に豊かな未来を作っていきます。



### キッズワールドカップin韓国

ユース事業部 北YMCA サッカー事業統括 かわかみ ゆうき 川上 裕己

8月7日(月)から11日(金・祝)、ソウルYMCA主催のキッズワールドカップに大阪YMCAから小学生13名のメンバーが参加しました。現地では、韓国と香港の子どもたちとサッカーやレクリエーションを通して交流を深めました。子どもたちは、覚えてたの韓国語や知っている英語を使いながら、韓国・香港のメンバーとコミュニケーションを取り、「韓国に友だちができた!」「ずっといたい!」などと喜びや楽しさを言葉にして表していました。

子どもたちは日本語が通じない中で、自分の伝えたい気持ちや考えをどのように相手に伝えることができるのかを考えました。子どもたち自身が工夫して、行動することが大切です。気持ちが通じ合った時に得た喜びは、子どもたちの心に残る大切な思い出になったと思います。



### スイミングフェスティバルin台北(台湾)

ユース事業部 南YMCA アクアティックディレクター やまぐち 山口 ひかる

8月19日(土)から23日(水)、台北YMCAにて3年ぶりのスイミングフェスティバル&国際交流プログラムが開催されました。大阪YMCAからは中学生1名と小学生4名が参加し、台北・台南・韓国ソウル・香港中華からの参加者を合わせて約480名が集まりました。スイミングフェスティバルは日頃の練習の成果を発揮する場になりました。また国際交流では、言語に捉われず、手遊びや歌、ダンスを通して交流を深め、最終日には「もっと一緒に遊びたかった」「また会おうね」の握手やハグを交わしていました。

世界に仲間や友だちができるということは、平和を作り出すための1歩だと改めて感じさせられました。



活動報告動画は  
コチラから



## 寄付金・支援金委員会の働き

大阪YMCA副会長 はせがわ よういち  
寄付金・支援金委員 長谷川 洋一

寄付金・支援金委員会は、皆様からいただいた貴い寄付金・支援金(クリスマス献金、障がい者支援金(チャリティーラン)、国際奨学支援金、青少年育成活動支援金など)をYMCAが実施する各プログラムに対して有効かつ適正に使われるように配分していくのが主な活動です。委員会では各プログラム担当から出された申請に基づき、審議をしていきます。その視点は、プログラムに対して、①社会課題に挑戦しているか ②社会課題を解決しているか ③YMCA全体で広く取り組むことにふさわしい

内容が ④YMCA運動であるか です。これらの審議を経て選定されたプログラムに委員会が支援金額を決めます。この他、国際奨学金の受給者も決定しています。このように大切な寄付金・支援金の使途を決める委員会の働きは責任が大きく、時間をかけて協議を重ねるため時間と労力もかかり、大変地道な作業です。しかし、YMCAの活動にとってとても大切であると私は考えています。これからも皆様からの寄付金・支援金、よろしくお願いします。



## ユース事業部(学校法人) ~表コミの学びの先に~

大阪YMCA国際専門学校 表現・コミュニケーション学科 学科長 きみはら えりこ 高原 恵理子

表現・コミュニケーション学科(表コミ)は、学力、コミュニケーション(社会性)、ライフスキル、自己肯定感の4つの力をつけ、卒業後社会的に自立できるピースメーカー(平和の担い手)を育てたいと考えています。特に、人と人との関わりの中で生まれる集団の力を重視し、その中で起こる対話的な学びを大切にしています。その取り組みの一つとして、2009年度から2年次「課題学習発表会」と3年次「課題研究発表会」を行っています。

表コミの発表は「意見文」がベースです。生徒一人ひとりが、テーマ(2年生はSDGs、3年生は各自で設定)に沿って、意見を他者に伝えて共感やフィードバックを得ます。この過程の中で、自分に向き合い、葛藤し、他者どう繋がるか深く考えることができるように、教職員が関わっていきます。また、様々な視点からの考えに触れるため、国語、社会、宗教



の授業を連携し、平和・戦争・宗教についても多角的に学ぶ機会を作ります。Web検索や参考図書などで調べるだけでは分からないことはインタビューをしたり、アンケートを取るなど社会性や計画性、調整力も求められます。

このような取り組みの集大成として、8月2日(水)に3年生の課題研究発表会を行いました。バラエティに富んだテーマ設定の中、生徒一人ひとりが緊張しながらも自分の言葉で語る姿に、大きな成長を感じました。発表を終えた生徒の一人は「自分と同じ経験をした人がこれから過ごしやすい環境にしていけるために思いを込めて伝えた」と達成感に満ちた表情を見せ、保護者からも「興味を引くように工夫しながら発表しており、感慨深かった」などの感想をいただきました。卒業生から「この経験があったから大学や専門学校で自信を持ってプレゼンができた」という声をよく聞きます。主体的・対話的な深い学びとアウトプットする経験が生きていく糧となるよう、これからも生徒の成長に寄り添っていきます。

- 【テーマ例】
- ・スマホによる眼の問題
  - ・民主主義の危機
  - ・水で自然に還るプラスチック
  - ・合理的配慮



## 社会福祉事業部

### コロナにも負けず!フレイルにも負けず! ~いきいき元気アップ教室の取り組みを通して~

YMCAサンホーム 副施設長 いしかわ けいこ 石川 慶子

新型コロナウイルス感染症による外出や趣味活動の自粛のため、運動・スポーツの活動が中止になったり、外出そのものをしなくなったりしたことで、体を動かす機会が少なくなりました。そのため、フレイルの進行が懸念されるようになり、その予防として「イェナカ」"巣ごもり"と呼ばれる活動の一環として、家の中でも取り組める運動などの新しい運動スタイルが目目されるようになりました。



YMCAサンホーム(特別養護老人ホーム)では、2018年より地域住民向けの体操教室として「いきいき元気アップ教室」を開催し、椅子に座った状態で下肢筋力を中心とする運動プログラムの実施をしています。2020年からは新型コロナウイルス感染症の影響により、プログラムの中止と再開を繰り返していましたが、2021年6月より、感染予防対策を行い、体操教室を本格的に再開しました。参加者からは、「家でも体操していたけれど、やっぱりみんなですると楽しい」との声も聞かれました。60分のプログラムが終了する頃には、身体を動かす喜びや達成感が生まれ、満足度の高いプログラムとなっています。プログラム中の漏れ聞こえる参加者の笑い声や元気な掛け声に導かれ、サンホームにも活気が戻ってきました。これからも、地域住民のみなさんとともに、元気になる、また多世代の方々となつがる場所となるように取り組んでいきます。



## YMCAストーリー

土佐堀地域活動委員長  
大阪西ワイズメンズクラブ ゆあさ よしや  
学校法人大阪YMCA 評議員 湯浅 禎也

YMCAとの出会いは2002年頃なので、かれこれ20年になると思います。2004年頃に当時土佐堀会員ライフ委員会というものがあり、そこにかかわったのが最初だったと思います。以降毎年、チャリティーラン、とさぼりカーニバル、クリスマス献金、サマーセミナー、ウエルネスリーダー支援等のボランティアとして参加させていただいております。

YMCAの活動は様々な年代や国籍の垣根を超えた交流や活動、それらを通じての自己研鑽があり、自分でも気づかないうちに人間力が成長していく場だと思っています。友人には、YMCAとは家庭でもなく職場でもなく趣味の集まりでもない、新たな居場所だと説明しております。

コロナ禍があり、近年地域活動委員会に関わっていただいているボランティアの人が減少しております。新たな居場所で一緒に活動をしていただける方を募集中です。よろしくお祈りします。



左端が湯浅さん



## 国際交流プログラムが動き始めました

大阪YMCAグローバル事業推進室 事業長 **Dominic Pangrazio**

コロナ禍を経て、今年度はYMCAの特徴である多くの国際交流プログラムが再開し、この夏にはグローバル事業推進室も複数のプログラムをサポートしました。7月には韓国ソウルYMCAの高校生が、YMCA阿南国際海洋センターでYMCA学院高校の生徒たちと交流。一方、学院高校とランゲージセンターから2名の高校生がソウルYMCAでの「環境問題についての模擬国連キャンプ」に参加しました。また、サンフランシスコからは、JCCNC(北カリフォルニア日本文化コミュニティセンター)のShinzenプログラムとして1997年より続くバスケットボール交流に13名の高校生とその家族が来阪し、大阪府立水都国際中学校・高等学校の生徒の家庭でのホームステイや、他の公立中学校も交えての交流試合で絆を深めました。他にも、香港中華YMCAによる高齢者施設(こさかデイサービス・YMCAサンホーム)でのボランティア活動、こども園職員の台北YMCA視察研修、メトロポリタンYMCAシンガポールの保育園スタッフの大阪YMCA視察など、交流が再開しています。グローバル事業推進室では、今後は更に盛んになる交流の機会に多くの人たちが参加できるよう、仕組みづくりに取り組みます。



JCCNCのShinzenプログラムでサンフランシスコから来日した高校生と大阪の中高校生によるバスケットボール交流



サンホーム(特別養護老人ホーム)を訪ねた香港からの大学生たち

## ユースリーダー安全支援金へのご協力に感謝申し上げます。

2023年8月度報告・敬称略

石川 慶子	奥野 正美	杉山 聡子	二宮 聡	松坂 佳江
泉原 勲三	小田 卓弥	大長 賢太郎	蓮井 洋城	三谷 雅子
伊藤 綾香	小島 英恵	高木 麻友	花野 真歩	宮原 学
上床 敦	片山 聡子	高橋 七虹	表現・コミュニケーション学科	宮本 修司
内野 花	川良 昌宏	瀧中 慎介	平井 あつ子	八木 恒朗
宇埜 充洋	Gokce Delioglu	田尻 忠邦	平岡 朋子	山崎 敬子・大智
大井 琴葉	斉藤 薫	谷 正一	平松 凜大	山手 梨花
大阪センテニアル ワイズメンズクラブ	坂井 祐菜	丹吾 礼	福井 てる子	山西 佑佳
大阪なかのしま ワイズメンズクラブ	佐々木 君江	鉄谷 明	藤原 礼	湯浅 禎也
岡本 泰宏	佐藤 智恵子	堂本 隆子	伏見 祐子	横山 伊津子
	Cynthia Villanueva	西村 麻衣	藤原 学	和田 侑子

## インフォメーション

### 大阪YMCA大会2023

日時：2023年11月23日(木・祝)13:30~16:00(予定)

場所：大阪YMCA会館 2階ホール・オンライン

(大阪市西区土佐堀1-5-6)

テーマ：はじめの一步 みんなでつむぐ VISION150

大阪YMCAの活動報告、会員表彰者紹介、交流の場を持ちます。今年度は多くの会員に楽しさを感じながら参画してもらえよう参加型の催しや大阪YMCAの各事業の紹介などを予定しています。当日は、2032年の大阪YMCA創立150周年に向かつてのVISION150の公式発表を行います。会員同士のつながりを体感し、未来の大阪YMCAと一緒に考えます。ぜひご参加ください。

参加方法、プログラム詳細等については大阪YMCAのホームページ、またFacebook等で随時お知らせいたします。



【ホームページサイト】

<https://osakaymca.or.jp/volunteer/events/Osaka-YMCA-Convention/2023.html>

【Facebookサイト】

<https://www.facebook.com/Osaka.YMCA.forum>

大阪YMCA大会事務局

TEL：06-6441-0894 E-mail：info@osakaymca.org

### 第354回早天祈祷会

YMCAを愛する人びとによって共に祈る時(毎月第3金曜日予定)が持たれています。YMCAの様々な場で活動されている方々にお話をいただき、人生の歩みを分かち合う恵みの時としています。祈祷会の後、朝食会を予定しています。

日時：2023年10月20日(金)7:30~8:30

証し：入江 保夫さん(元大阪YMCA職員)

場所：大阪YMCA会館 10階チャペル(大阪市西区土佐堀1-5-6)

参加費：300円

※中止の場合は大阪YMCAホームページ「NEWS 新着情報」でお知らせいたします。



大阪YMCA本部事務局 総務

TEL：06-6441-0894

E-mail：info@osakaymca.org

## 会員・賛助会員としてのご協力に感謝申し上げます。

2023年8月度報告・敬称略

### 【新規会員】

樫畑 寛治  
佐々木 凜  
須佐 神楽  
田中 崇人  
八木 遥希

### 【継続会員】

朝倉 羽玖  
大藪 暢子  
島 幸之助  
中川 卓弥  
芳賀 義昭  
増成 恒哉  
向谷 章

### 【継続賛助会員】

株式会社扇谷  
象印マホービン株式会社  
株式会社テツタニ

大阪YMCA  
ホームページ



ボランティア  
スクエア

